

項目別評価

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

市立病院は、それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、本市の医療施策上必要とされる医療を安定的に提供すること。

(1) 広島市民病院、(2) 安佐市民病院

中期目標	ア 救急医療 広島市民病院は、初期救急から三次救急までの救急医療を24時間365日体制で提供するとともに、引き続き救急医療コントロール機能の中心的な役割を担うこと。また、安佐市民病院は、県北西部地域等の中核病院として、引き続き実質的な三次救急医療を提供すること。
	イ がん医療 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を図り、高度で先進的ながん医療を提供すること。
	ウ 周産期医療 広島市民病院は、総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊娠婦や新生児への周産期医療を提供すること。
	エ 災害医療 災害拠点病院として、災害時に、迅速かつ適切な医療を提供するとともに、災害医療における中心的な役割を果たすこと。
	オ へき地医療 安佐市民病院は、へき地医療拠点病院として、また、市北部地域のみならず、県北西部地域等を対象とした中核病院として、関係医療機関に対する診療や医療従事者の研修等の支援に取り組むこと。

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置				
1 市立病院として担うべき医療 <u>(大項目)</u> それぞれの病院の特徴を生かし、他の医療機関との役割分担、連携を図りながら、市民生活に不可欠な医療や高度で先進的な医療を安定的に提供します。	1 市立病院として担うべき医療 <u>(大項目)</u> 広島市民病院は、初期救急から三次救急までの救急医療を24時間365日体制で提供するとともに、引き続き救急医療コントロール機能の中心的な役割を担うこと。また、安佐市民病院は、県北西部地域等の中核病院として、引き続き実質的な三次救急医療を提供すること。				
(1) 広島市民病院	(1) 広島市民病院				

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			記号	市長による評価								
	年度計画	評価理由等												
<p><u>ア 救急医療の提供（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期レベルの一次救急医療から、救命救急センターを備え一刻を争う重篤患者に対する三次救急医療までを24時間365日体制で提供します。 ・受入困難事案の救急患者を一旦受け入れ初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関への転院を行う役割を担う救急医療コントロール機能病院としての運営に取り組みます。 ・医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。 	<p><u>ア 救急医療の提供（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供 ・救急医療コントロール機能病院としての運営 ・一次救急医療の提供体制の適切な運営（広島市医師会千田町夜間急病センターとの連携など） ・救急患者等に対する相談業務の実施 	<p>【一次から三次までの救急医療を24時間365日体制で提供】</p> <p>○ 一次から三次までの救急医療を24時間365日提供し、令和元年度は、救急患者31,577人（救急車7,101台、ウォークイン24,476人）を受け入れた。</p> <p>【救急医療コントロール機能病院の運営】</p> <p>○ 救急患者の転院受入れを行う支援病院（34病院）と連携を取りながら、受入困難事案の救急患者の受入れ等を行った。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年</th> <th>平成30年</th> <th>平成31年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入困難事案の受入人数</td> <td>165人</td> <td>246人</td> <td>217人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【一次救急医療の提供体制の適切な運営】</p> <p>○ 軽症患者の振り分けを推奨するため、院内でのポスター掲示や救急外来でリーフレット等を配付することにより千田町夜間急病センターの案内を行うとともに、患者からの待ち時間等についての問合せには電話確認などで対応し、連携を図った。</p> <p>【救急患者等に対する相談機能の実施】</p> <p>○ 接遇マナー研修等を行い、医療相談員等のスキルの向上を図り、救急患者等に対する相談機能の充実を図った。また、支援病院との連携を図り、円滑な転院に努めた。</p>	区分	平成29年	平成30年	平成31年	受入困難事案の受入人数	165人	246人	217人		3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	平成29年	平成30年	平成31年											
受入困難事案の受入人数	165人	246人	217人											

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価		
	年度計画		記号	評価理由・コメント等	
イ がん診療機能の充実(小項目) ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。 ・化学療法のニーズに対応できるよう、通院治療センターの体制等の充実を図ります。 ・「広島がん高精度放射線治療センター」と連携して質の高い医療を提供します。	イ がん診療機能の充実(小項目) <ul style="list-style-type: none"> ・手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた集学的治療の実施 ・多職種による緩和ケアチーム活動の実施 ・がんに関する様々な情報の提供（研修会の開催、がん教育の実施） ・がん患者等への相談支援の実施 ・「広島がん高精度放射線治療センター」との連携 ・薬剤師外来の充実 	<p>【手術、化学療法、放射線治療と、これらを適切に組み合わせた治療の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 診療科ごとに、毎週、キャンサーボード（病理、放射線部門等他職種を交えた診療協議）を行い、手術方法、手術後の化学療法、放射線治療などについて協議し、患者にとって最良の治療方法の検討を行った。また、困難事例については、必要に応じて、病院全体のキャンサーボードを行った。 ○ 新規に保険適用されたロボット手術のうち、腹腔鏡下の胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術、子宮悪性腫瘍手術、胸腔鏡下の肺悪性腫瘍手術の施設基準を取得し、実施した。 <p>【緩和ケアチームの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 麻酔科医師、外科医師、精神科医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師、医療相談員（M S W）で構成。チームは痛みの緩和だけでなく、病気が招く心と身体のつらさに積極的に関わり生活の質の向上につなげた。 ○ 緩和ケア外来では、令和元年度に初診 76 件、再診 514 件の診療を行った（平成 30 年度は初診 44 件、再診 419 件）。 <p>【がんに関する様々な情報の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療情報サロンにおいて、がんに関する図書等の情報を常時更新し、閲覧ができるようしている。このほか、同サロンにおいて、毎月、院内の医師や外部講師を招へいして、患者、家族の集いを開催した。 ○ ホームページにがん治療に関する情報等を掲載し、周知を図った。 <p>【がん患者等への相談支援の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療支援センター内のがん診療相談室において、がん患者やその家族の様々な相談に応じた。 <p>【高精度放射線治療センターとの連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島がん高精度放射線治療センター（H I P R A C）の要員として、診療放射線技術 1 人を引き続き派遣した。 また、令和元年度には広島市民病院から 82 人の患者紹介を行った（平成 30 年度は 65 人）。 <p>【薬剤師外来の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 投薬窓口のお薬相談室で行っていた薬剤師外来を入院支援室に 2 ブース設 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		けて相談機能等の充実を図るとともに、注射薬の抗がん剤のみならず経口薬の抗がん剤についても医師の診察前に患者面談による副作用のモニタリング、支持療法の提案、薬剤の用量調整等を実施した。			
ウ 周産期医療の提供（小項目） 総合周産期母子医療センターとして、リスクの高い妊産婦や極低出生体重児に対する医療等、母体、胎児及び新生児に対する総合的で高度な周産期医療を提供します。	ウ 周産期医療の提供（小項目） ・総合周産期母子医療センターの運営	<p>【総合周産期母子医療センターの運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新生児部門は、N I C U（新生児集中治療室）9床、G C U（新生児治療回復室）24床で運営し、令和元年度は343人の入院があった。 ○ 産科部門は、一般病床36床で運営し、令和元年度は962件の出産（うち異常分娩520件）があった。 ○ 帝王切開を安全かつ速やかに実施するため、総合周産期母子医療センター内に手術室を整備し令和元年11月から運用を開始した。令和2年3月末までに37件の手術を実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
エ 災害医療の提供（小項目） ・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害等に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。 ・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。 ・D M A T（災害派遣医療チーム）の派遣要請に基づく	エ 災害医療の提供（小項目） ・災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等 ・災害その他の緊急時における医療救護活動の実施 ・災害時に迅速かつ適切な医療提供を確保するための業務継続計画（B C P）に基づく研修・訓練の実施	<p>【災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時に備え、自家発電設備等ライフラインの機能の維持、患者用の食糧、飲料水の確保、医薬品の備蓄に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。 <p>【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は、災害支援ナース28人の登録があり、8人の看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させた。 ○ 令和元年度の医療救護活動の実績はなかったが、広島県主催によるD P A T（災害派遣精神医療チーム）の研修に医師、看護師及び医療相談員（M S W）が参加した。 <p>【業務継続計画（B C P）に基づく研修・訓練の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成31年3月に策定した業務継続計画に基づき、令和元年11月13日に大規模災害を想定したトリアージ訓練、令和2年3月23日に「院内防災訓練」を実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																															
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号																														
き、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ DMAT（災害派遣医療チーム）の派遣、スタッフの育成 ・ 感染症患者診療に係る舟入市民病院との連携 	<p>【DMATの派遣、スタッフの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DMATの強化・充実を図るため、医師1人、看護師1人、放射線技師1人に資格取得研修を受講させた。また、DMATを統括する人材を育成するため、医師1人を令和元年5月初旬に統括DMAT資格取得研修に受講させ、インストラクター資格を習得させた。 ○ 令和元年9月7日に実施された大規模地震時医療活動訓練に医師3人、看護師2人が参加した。 <p>【感染症患者診療に係る舟入市民病院との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第二類に該当する感染症患者の発生時には、第二種感染症指定医療機関である舟入市民病院の感染対策チームと連携し適切な患者搬送を行うこととしている。 																																		
オ 低侵襲手術等の拡充（小項目） 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」の活用やカテーテル治療とバイパス手術などの外科手術を同時に行うことのできるハイブリット手術室の運用を進め、患者の身体的負担が少ない手術等を拡充します。	<u>オ 低侵襲手術等の拡充（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ 患者の身体的負担の少ない内視鏡手術及び内視鏡的治療の推進 	<p>【内視鏡手術及び内視鏡的治療の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 患者の身体的負担が少ない内視鏡手術等を2,449件行った。 <p>(件)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡手術</td> <td>1,934</td> <td>2,060</td> <td>2,148</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内視鏡的 治療(ESD)</td> <td>食道</td> <td>51</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>胃</td> <td>264</td> <td>192</td> </tr> <tr> <td>大腸</td> <td>88</td> <td>83</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>403</td> <td>381</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○ 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」（平成30年10月更新）を活用して143件の手術を行った。 ○ 新規に保険適用されたロボット手術のうち、腹腔鏡下の胃切除術、胃全摘術、噴門側胃切除術、子宮悪性腫瘍手術、胸腔鏡下の肺悪性腫瘍手術、良性縦隔腫瘍手術の施設基準を取得し、実施した。 <p>(件)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>内視鏡下手術 (ダヴィンチ)</td> <td>149</td> <td>112</td> <td>109</td> <td>143</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	内視鏡手術	1,934	2,060	2,148	内視鏡的 治療(ESD)	食道	51	56	胃	264	192	大腸	88	83	計	403	381	区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	内視鏡下手術 (ダヴィンチ)	149	112	109	143	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																	
内視鏡手術	1,934	2,060	2,148																																	
内視鏡的 治療(ESD)	食道	51	56																																	
	胃	264	192																																	
	大腸	88	83																																	
	計	403	381																																	
区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																																
内視鏡下手術 (ダヴィンチ)	149	112	109	143																																

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
力 中央棟設備の老朽化への対応（小項目） 救命救急センター、ICU（集中治療室）、中央手術室等、病院の中枢機能が集中する中央棟は、築後2年を経過し、建物設備の老朽化が進行していることから、計画的な改修など、老朽化への対応を行います。	力 中央棟設備の老朽化等への対応（小項目） ・吸収式冷凍機改修 ・水熱源ヒートポンプ型ファンコイルユニット改修 ・滅菌室RO水製造装置改修	【吸収式冷凍機、水熱源ヒートポンプ型ファンコイルユニット及び滅菌室RO水製造装置の改修】 ○ 中央棟地下2階にある吸収式冷凍機を改修した。 工事発注額：3,618万8千円 工期：令和2年3月3日～令和2年6月30日 ○ 中央棟1階、5階の水熱源ヒートポンプ型ファンコイルユニットを改修した。 工事発注額：8,059万円 工期：令和元年12月18日～令和2年5月29日 ○ 中央棟4階にある滅菌室RO水製造装置の改修については、実施設計委託業務の入札が不調となつたため、令和2年度に実施することとした。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
(2) 安佐市民病院	(2) 安佐市民病院				
ア 救急医療の提供（小項目） ・県北西部地域等の救急医療体制の実態を踏まえ、引き続き実質的な三次救急医療を提供します。 ・医師会が運営する夜間急病センターとの連携、協力の下、一次救急医療の提供体制の適切な運営に努めます。	ア 救急医療の提供（小項目） ・県北西部地域等における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供 ・一次救急医療の提供体制の適切な運営（安佐医師会可部夜間急病センターとの連携など）	【実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供】 ○ 県北西部地域等における実質的な三次救急医療を24時間365日体制で提供し、令和元年度は、救急車4,623台、救急患者11,348人を受け入れた。 【一次救急医療の提供体制の適切な運営】 ○ 令和元年度に安佐市民病院が受け入れた一次救急患者数は、1日当たり2.8人で、安佐医師会可部夜間急病センター開設以前の平成22年度の4.5人と比べ1.7人減となった。また、同センターが受け入れた令和元年度の1日当たりの患者数は8.1人（開設当初の平成23年度と同数）で、同センターと連携して適切に運営を行った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
イ がん診療機能の充実（小項目） ・地域がん診療連携拠点病院として、豊富な治療実績や高度な医療機器を活用し、手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療、緩和ケアを行います。 ・P E T - C T （陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）や低被ばくC Tを活用し、精度の高い診断を行います。	イ がん診療機能の充実（小項目） ・手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた集学的治療と緩和ケアの実施 ・P E T - C T （陽電子断層撮影・コンピュータ断層撮影複合装置）や低被ばくC Tを活用した精度の高い診断の実施 ・低被ばくC Tを活用した健康診断の充実の検討 ・化学療法患者の頸骨壊死の早期発見を目指した歯科連携の実施	<p>【がん診療機能の充実（がんゲノム医療開始）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 31 年 4 月に「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、令和元年 10 月から、院内患者のがんゲノム医療を開始した（令和元年度実績 11 件）。 また、令和 2 年 4 月から「がんゲノム診療科」を開始するとともに、がんゲノム医療中核病院である岡山大学病院及びがんゲノム医療拠点病院である広島大学病院と連携し、院外からの紹介患者の受入を開始する。 <p>【手術や化学療法、放射線治療を適切に組み合わせた治療と緩和ケアの実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ キャンサーボードを毎週開催し、手術や化学療法、放射線治療などについて協議し、これらを適切に組み合わせた治療と緩和ケアを着実に行った。 また、月 1 回、院外専門家の意見を聴きながら実施した。 <p>【P E T - C T や低被ばくC Tを活用した精度の高い診断の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は、P E T - C T の撮影を 1,433 件、C T (P E T - C T を除く。) の撮影を 31,652 件行い、がんの早期発見、転移や再発について、精度の高い診断を行った（平成 30 年度に比べ、P E T - C T が 58 件、C T が 4,017 件増加した）。 <p>【低被ばくC Tを活用した健康診断の充実の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度においては、C Tを活用した健康診断（一次精密検査）の実績はなく、当面は、再検査など、二次精密検査によるC T検査の増加を図る。 <p>【化学療法患者の頸骨壊死の早期発見を目指した歯科連携の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年 4 月 1 日より、骨吸収抑制薬使用患者の地域連携バスの運用を開始しており、安佐市民病院で口腔管理を行っている患者数は 88 人で、そのうち 11 人について地域の歯科医院と連携を実施した。また、令和元年度は、院内で 3 人の頸骨壊死を早期に発見することができた。 	4	4 月に「がんゲノム医療連携病院」の指定を受け、10 月からがんゲノム診療を開始した。また化学療法や低被ばくC T 等の精度の高い診断を積極的に行っているため、年度計画を上回っていると判断し、「4」と評価した。	4

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	・内視鏡検査室の増設	<p>【内視鏡検査室の増設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 内視鏡検査室を 1 室増設し、令和元年 6 月 18 日より運用を開始したことにより、内視鏡検査及び治療件数が増加となった（内視鏡検査件数 13,500 件、（平成 30 年度 12,456 件）、内視鏡治療件数 3,202 件（平成 30 年度 2,816 件）、胃 E S D 治療（内視鏡的粘膜下層剥離術）件数 209 件（平成 30 年度 201 件）、大腸 E S D 治療件数 213 件（平成 30 年度 146 件）実施。 また、がん患者の待ち期間が 8 週前後から 2~4 週に短縮した。 			
ウ 災害医療の提供（小項目）	<p>・災害拠点病院として、地震や台風等の自然災害、大規模火災等の都市災害に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等を行い、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保します。</p> <p>・災害その他の緊急時には、広島市地域防災計画等に基づき、広島市長からの求めに応じて適切に対応するとともに、自らの判断で医療救護活動を行います。</p> <p>・D M A T の派遣要請に基づき、被災地へ医師等を派遣し、被災地の医療活動を支援します。</p>	<p>ウ 災害医療の提供（小項目）</p> <p>・災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等</p> <p>・災害その他の緊急時における医療救護活動の実施</p> <p>・D M A T の派遣要請に基づく被災地へ医師等の派遣</p> <p>・災害時に迅速かつ適切な医療提供を確保するための業務継続計画（B C P）に基づく研修・訓練の実施と計画</p>	<p>【災害拠点病院としてのライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害時に備え、自家発電設備等のライフライン機能の維持、医薬品の備蓄等に努め、災害時に、迅速かつ適切な医療提供ができる体制を確保した。 <p>【災害その他の緊急時における医療救護活動の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は、災害支援ナース 7 人の登録があり、4 人の看護師に広島県看護協会主催の講習を受講させた。 ○ 令和元年度の医療救護活動の実績はなかったが、令和元年 9 月 7 日に安佐医師会、消防との救急救護合同訓練を実施するなど、日頃から防災関係機関や地域の医療機関との連携を図っている。 <p>【D M A T の派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度の派遣実績はなかったが、D M A T 隊員を中心とした災害対策チーム会において、災害対策の検討やシミュレーション研修、災害救護訓練の企画立案などの取組を行った（令和元年度は災害対策チーム会を 3 回実施）。 <p>【業務継続計画（B C P）に基づく研修・訓練の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 31 年 3 月に策定した業務継続計画に基づき、令和元年 9 月 7 日に南海トラフ地震発生に伴う列車脱線事故を想定した救急救護合同訓練を安佐医師会、消防と共に安佐市民病院で実施した（同病院職員は、医師、看護師及び事務職員等 36 人参加）。訓練では、院内に災害対策本部を立ち上げ、閉院日昼間の想定でトリアージブースを設け、要救護者の受入訓練を実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>工 へき地医療の支援（小項目）</u> ・へき地医療拠点病院として、市北部地域のみならず、県北西部地域等の医療状況等に応じて、引き続き医師の派遣に取り組みます。 ・県北西部地域等の医療従事者に対する研修の提供やWEB会議システムの活用により診療の質の向上を支援するとともに、交流の場を提供します。	<u>工 へき地医療の支援（小項目）</u> ・広島県北西部地域医療連携センターの設置に伴う支援 ・県北西部地域等の医療状況等に応じた医師派遣の充実 ・県北西部地域等の医療従事者に対する研修及び交流の場の提供 ・県北西部地域等の医師の診療支援のためのWEB会議システムの運用 ・ICT技術を活用した遠隔画像読影の推進	<p>【広島県北西部地域医療連携センターの設置に伴う支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年9月に広島県北西部地域医療連携センターの運営を開始し、研修や派遣等の支援を充実させた。具体的には、代診や宿直支援の開始、派遣回数の増加、広島大学ふるさと枠医師の受入と研修体制の整備等を行った。 <p>【県北西部地域等の医療状況等に応じた医師派遣の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 北広島町、安芸太田町及び邑南町（島根県）のへき地診療所等へ、延べ198人の医師を派遣した（平成30年度は延べ91人）。そのほか、安芸太田病院から依頼のあった372件の遠隔画像読影を行った（平成30年度は428件）。 <p>【県北西部地域等の医療従事者に対する研修及び交流の場の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県北西部地域等の医療従事者に研修及び交流の場を提供するため、広島県北西部地域医療連携センター等の研修会を2回開催し、1回目は18施設55人、2回目は16施設72人の参加があった（平成30年度は1回開催し、27施設57人参加）。 <p>【県北西部地域等の医師の支援のためのWEB会議システムの運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院を含む県北西部地域等の8医療機関において、WEB会議システムを活用して医療機関合同のカンファレンスを44回実施した。また、このシステムを利用して、腹部エコーカンファレンスを22回実施した。 <p>【ICT技術を活用した遠隔画像読影の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安芸太田病院の遠隔画像読影を1日2件実施した。今後は1日当たりの件数を増やすよう安芸太田病院と協議を進めている。 	4	広島県北西部地域医療センターの運営を開始し、医師派遣延べ人数を大幅に増加するなど支援を充実させているため、年度計画を上回っていると判断し、「4」と評価した。	4
<u>オ 低侵襲手術の拡充等（小項目）</u> 内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を活用した手術の対象領域の拡大や心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術	<u>オ 低侵襲手術の拡充等（小項目）</u> ・内視鏡下手術用ロボットを活用した手術の対象領域の拡大	<p>【内視鏡下手術用ロボットを活用した手術の対象領域の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は泌尿器科領域において、腎がん22件、前立腺がん91件、膀胱がん12件のロボット支援下手術を実施した（平成30年度は腎がん18件、前立腺がん95件、膀胱がん5件実施）。 ○ 令和元年6月に胃がんに対する腹腔鏡下胃全摘、令和元年12月に直腸がんに対する腹腔鏡下直腸切除・切除術の内視鏡下手術用ロボットの施設認定が完 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価		
	年度計画		記号	評価理由・コメント等	
の推進等を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術の推進 ・クライオアブレーション導入による心房細動アブレーションの実施 	<p>了し、保険適用となった（令和元年度末時点で胃がん延べ 30 件、直腸がん延べ 18 件実施）。</p> <p>【心臓手術における小切開手術など患者の身体的負担が少ない手術の拡充と日帰り手術の推進】</p> <p>○ 右開胸下小切開僧房弁形成術を 4 件行い、前半の 2 件は外部医師の指導の下で、後半の 2 件は安佐市民病院の職員のみで行った。小切開手術を希望される患者のニーズに応えられる体制を整えた。</p> <p>【クライオアブレーション導入による心房細動アブレーションの実施】</p> <p>○ 令和元年度は、クライオアブレーションを 39 例実施した（平成 30 年度は 26 例実施）。これまでの高周波カテーテルアブレーションと比較して、手技時間及び放射線被ばく時間の大�な短縮が可能となっており、初期成功率や合併症率の悪化も生じていない。</p> <p>※クライオアブレーション：組織を冷凍凝固することで、心筋組織に障害をもたらし、不整脈を治療すること。</p> <p>※高周波カテーテルアブレーション：カテーテル先端から高周波エネルギーを通電し、心筋を焼灼する治療法のこと。</p>			
力 新病院での新たな取組の検討（小項目） 新病院における高度で先進的な医療の実施・拡充等を検討するとともに、その体制づくりや関連業務の検討を行います。	<u>力 新病院での新たな取組の検討（小項目）</u> 広島市北部医療センター 安佐市民病院開設準備委員会を設置して以下の項目を検討 <ul style="list-style-type: none"> ・地域救命救急センター整備の検討 ・医師、看護師のほか薬剤師、臨床検査技師、医療ソーシャルワーカーを含めた救急患者受入体制の検討 	<p>令和元年 6 月に開設準備委員会を立ち上げ、同年 7 月以降 16 ワーキンググループ（以下「WG」という。）で議論を進めた。また、令和元年度の議論の取りまとめを行い、検討中の項目については引き続き検討を進めていく。</p> <p>【地域救命救急センター整備の検討】</p> <p>○ 救急救命・ドクターへリ WG で、地域救命救急センターの勤務体制（医師 9 人体制）について議論を行った。看護師、医療技術者の勤務体制及び人員配置については今後も検討を進めていく。</p> <p>【医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師等を含めた救急患者受入体制の検討】</p> <p>○ 救急救命・ドクターへリ WG で、医師の診療体制、薬剤部門等他部門や病棟など組織の垣根を越えた連携等について議論を行った。また、ドクターへリ搬送患者受け入れ手順案を策定した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・周術期の管理を充実するために周術期管理チームの整備の検討 ・循環器内科と心臓血管外科が一体となった心臓疾患チーム（ハートチーム）による医療の推進の検討 ・院内がんセンター、脊椎・関節センター等の設置の検討 ・365日リハビリテーションが提供できる体制の検討 ・IOTを活用した看護業務の効率化の検討 ・安全な注射管理のための病棟における注射薬の調製の検討 ・診療報酬請求事務の委託内容等の見直しの検討及び直営化の調査・検討 	<p>【周術期の管理を充実するために周術期管理チームの整備の検討】</p> <p>○ 現在、周術期管理チームは、多職種が共同して周術期医療の安全・質の向上を目指し活動している。新病院においては、さらに周術期の管理を充実させるため、放射線科との連携や管理システム（周術期患者管理システム）の導入等について検討を行った。</p> <p>【循環器内科と心臓血管外科の心臓疾患チームによる医療の推進の検討】</p> <p>○ 新病院にて掲げる、「循環器内科と心臓血管外科が一体となった心臓疾患チームによる医療の推進」に向けて、実質的なハートチームを立ち上げ、カンファレンスを実施した。</p> <p>【院内がんセンター、脊椎・関節センター等の設置の検討】</p> <p>○ 外来WGにおいて、チーム医療体制の充実のため関連診療科を集約配置しセンター化を図る等の結論を得た。</p> <p>【365日リハビリテーションが提供できる体制の検討】</p> <p>○ 新病院で365日リハビリテーションを実施するために必要な療法士数等についての検討を引き続き行った。</p> <p>【IOTを活用した看護業務の効率化の検討】</p> <p>○ 患者の入眠状況の把握により、転倒・転落予防を図ることを目的としたスマートベッドや、タイムリーかつ誤りや漏れのない記録の実現に向けて、患者のバイタルデータ等を自動送信することが可能となるスポットチェックモニタを新病院に導入することを検討した。</p> <p>【安全な注射管理のための病棟における注射薬の調製の検討】</p> <p>○ 病棟における安全な注射管理のために、薬剤部員全員で注射薬の無菌調整業務を行い、技術の研鑽に努めた。</p> <p>【診療報酬請求事務の委託内容等の見直しの検討及び直営化の調査・検討】</p> <p>○ 事務WGで入院・外来診療報酬算定の業務等の直営化について検討を行った。今後も、引き続き、検討を進めていく。</p>			

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価		
	年度計画		記号	評価理由・コメント等	
	<p><u>キ その他（小項目）</u></p> <p>(7) リハビリテーションの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期リハビリテーションの充実 <p>・心臓リハビリテーション、がんリハビリテーション、言語療法リハビリテーションの実施</p> <p>(8) 専門外来の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療ニーズに応じた専門外来の実施（特定行為看護師の専門外来の実施） <p>・薬剤師外来実施の検討</p> <p>(9) 地域講演会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバンス・ケア・プランニングに関する地域講演会の開催 	<p>【早期リハビリテーションの充実】</p> <p>○ 平成 30 年度より特定集中治療室に専任の理学療法士を 1 人配置し、介入プロトコルの作成により、8 時間以内の実施率は向上した。また、リハビリテーション待機期間の短縮を図るため、可能な限り処方翌日に介入できるよう取り組み、VF 検査を当日処方、遅くとも翌日には実施した。この結果、令和元年度 VF 検査は 805 件（平成 30 年度 729 件）となった。</p> <p>【心臓、がん、言語療法リハビリテーションの実施】</p> <p>○ 北 5 病棟に専従の理学療法士を 1 人配置し、ADL の維持向上、転倒・褥瘡発生の予防、早期の退院支援等を行うとともに、肺がん、食道がん、胃がん、大腸がん、乳がん等のリハビリテーションを術後早期から行った。また、外来小児言語療法を継続するための診察体制を維持した。</p> <p>【医療ニーズに応じた専門外来の実施】</p> <p>○ 特定行為研修修了者による糖尿病患者へのインスリン量の調整及び療法指導を毎週木曜日に実施した。令和元年度の実施患者数は 27 人、延べ実施回数は 83 回であった。また、認定看護師によるがん患者の指導相談 820 件、助産師による助産外来 208 件、認定看護師による専門外来として、ストーマ外来 573 件、もの忘れ外来 648 件、心不全外来 134 件、リンパ浮腫外来 87 件（病棟往診を含む）を実施した（平成 30 年度は、がん患者の指導相談 645 件、助産外来 102 件、ストーマ外来 618 件、もの忘れ外来 701 件、心不全外来 177 件、リンパ浮腫外来 54 件（病棟往診を含む））。</p> <p>【薬剤師外来実施の検討】</p> <p>○ がん専門薬剤師及び認定薬剤師が、空きスペースを工面して外来がん化学療法実施中の患者（令和元年度は 667 人）に副作用確認、患者指導を行った。今後は、実施場所と人員の確保ができれば、医師の診察前に予約制の薬剤師外来として取り組むこととしている。</p> <p>【アドバンス・ケア・プランニングに関する地域講演会の開催】</p> <p>○ 地域包括支援センター、社会福祉協議会及び区役所と協力して、アドバンス・ケア・プランニングや認知症等についての地域講演会を年 8 回開催し、地域との関係作りの充実を図った。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		※ アドバンス・ケア・プランニング：患者本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病気だけでなく、将来、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ、終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うことや、意思決定が出来なくなったときに備えて、本人に代わって意思決定をする人を決めておくプロセス			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

(3) 舟入市民病院

中期目標	ア 小児救急医療等、 小児専門医療 小児救急医療拠点病院として、小児科の24時間365日救急診療を行うとともに、初期救急医療機関及び二次救急医療機関としての医療を提供すること。また、年末年始救急診療等を引き続き実施するとともに、小児診療に特長のある病院として小児心療科等の小児専門医療の充実を図ること。
	イ 感染症医療 広島二次保健医療圏における第二種感染症指定医療機関として、引き続き感染症患者の受入体制を維持すること。
	ウ 障害児（者）医療 医療的なケアが必要な重症心身障害児（者）の受入体制の充実を図るとともに、障害児（者）に対する診療相談機能を整備すること。

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) 舟入市民病院	(3) 舟入市民病院				
ア 小児救急医療の提供（小項目） ・小児科の24時間365日救急診療を安定的に提供するため、引き続き、医師会、広島大学等の協力を得るとともに、市立病院間の応援体制の強化に取り組みます。また、重篤な小児救急患者の円滑な搬送を行うため、三次救急医療機関との連携を図ります。 ・トリアージナースの能力向上を図り、診療体制の強化に取り組みます。	ア 小児救急医療の提供（小項目） ・小児救急医療を24時間365日体制で提供 ・市立病院間の応援体制の整備及び三次救急医療機関との連携 ・トリアージナースの能力向上のための研修実施	<p>【小児救急医療を24時間365日体制で提供】</p> <p>○ 令和元年度においても、医師会や広島大学等の協力を得て、24時間365日体制で小児救急医療を実施した。</p> <p>【市立病院間の応援体制の整備及び三次救急医療機関との連携】</p> <p>○ 小児救急医療の実施に当たっては、市立病院間の応援体制を整えるとともに、重篤で高度医療が必要な患者については、広島大学病院などの三次救急医療機関に搬送し（25人）、一方で三次救急医療機関からも積極的に受け入れる（26人）などの連携を図った。</p> <p>【トリアージナースの能力向上のための研修実施】</p> <p>○ 小児救急看護認定看護師が中心となって、小児救急看護分野の院内認定制度を導入した。また、トリアージナース育成に関する研修やフォローアップ研修などを制度化し、トリアージナースの能力の向上を図った。</p> <p>さらに、成人のトリアージの導入に向け、院外研修や広島市民病院での実務研修へ外来の看護師を派遣し、取り組んでいる。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
イ 小児専門医療の充実（小項目） 小児心療科において、精神療法等の個人療法やグループで治療を行う集団療法に加え、未治療者や治療中断者の重症化防止のための支援について検討を行います。また、小児科のアレルギー外来と連携し、アトピー疾患専門医による診療の充実を図ります。	イ 小児専門医療の充実（小項目） ・小児科入院患者に対する小児心療科のフォローワー体制の充実に向けた検討	<p>【小児科入院患者に対する小児心療科のフォローワー体制の充実に向けた検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小児科入院患者に対し、小児科医と連携し、入院中から退院後においても小児心療科がフォローを行った。 ○ また、広島大学病院皮膚科のアトピー疾患専門医により、週1日の外来診療を行った。患者への細やかな外用薬の使用指導や院内小児科と連携した診療を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
ウ 感染症医療の提供（小項目） ・第二種感染症指定医療機関として、重症急性呼吸器症候群（SARS）や新型インフルエンザ等の感染症患者への対応が迅速に行えるよう、平常時から医療体制を維持するとともに、感染症発生時には、市立病院を始めとする市内の関連病院と連携して対応します。 ・感染症専門資格の取得など教育研修への参加を促進し、職員の専門性の向上を図ります。	ウ 感染症医療の提供（小項目） ・第二種感染症指定医療機関としての病院運営 ・感染症医療に関する専門性の向上 ・新型インフルエンザ等対策マニュアルの運用	<p>【第二種感染症指定医療機関としての病院運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第二種感染症指定医療機関として16床の感染症病床による運営体制を維持した。新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、マニュアルの整備を行い、具体的に対応できるよう体制の構築を行うとともに市や県、近隣の病院等との連携を強化した。 <p>令和2年2月から患者の受入れを始め、患者の増加に伴い、同年3月29日に感染病床を7階から6階に移し、受け入れ病床を拡大した。令和元年度末までに、入院実患者34人、延べ患者75人を受け入れた。</p> <p>【感染症医療に関する専門性の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 感染制御認定薬剤師（B C P I C）の資格の取得又は更新をするため、感染制御専門薬剤師講習会へ1人、日本感染症教育研究会セミナーへ1人参加した。 また、抗菌化学療法認定薬剤師の資格更新のため、抗菌化学療法認定薬剤師講習会へ1人参加したほか、医師1人、薬剤師1人、看護師1人、検査技師2人が日本環境感染症学会学術講演会等に参加した。 <p>【新型インフルエンザ等対策マニュアルの運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型インフルエンザ等対策マニュアルの連絡・搬送等の確認のため、感染症認定看護師が広島空港検疫措置訓練及び呉港湾新型インフルエンザ検疫措置訓練に参加した。 ○ 新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、令和2年1月から対応の検討を 	4	新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、迅速かつ的確に対策マニュアルを作成し、また患者の増加に伴い受入病床を拡大するなど、適切に対応したため、年度計画を上回っていると判断し、「4」と評価した。	4

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																			
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																			
		開始した。保健所と対応方針の確認を行った後に、院内で検討を重ね、同年1月30日に同感染症対策マニュアルを作成し、受け入れ準備を行った。																						
工 病院機能の有効活用（小項目） ・広島市民病院からの手術症例の受け入れ強化を行うとともに、地域住民の緊急時の受け入れ強化等に取り組みます。 ・法人における外科系研修医師の手術教育施設（トレーニング）として、良性疾患を中心とした手術を行います。	工 病院機能の有効活用（小項目） ・救急患者やMRI検査を待つ患者等の積極的な受け入れや手術教育施設としての外科系研修医の受け入れなど広島市民病院との連携強化	<p>【広島市民病院との連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院から急性期医療を終えた紹介患者を734人受け入れるとともに、地域の医療機関からの紹介患者についても受入手順を効率化し、積極的に受け入れた。 こうした広島市民病院をはじめとする医療機関からの受け入れを推進するため、診療科医師や看護師等による医療連携運用会議を毎月開催し、入院患者の入退院状況の把握、調整に努め、運用体制の強化を図った。 なお、小児科を除く内科・外科の病床利用率は、8月まで平均80%を超える病床利用率となっていたが、新型コロナウイルス感染症に関する患者を受け入れるために、入院患者の抑制を行ったこと等により、年間平均では73.4%と目標の83.0%を下回った。 ○ 広島市民病院との間で共通の電子カルテシステムを使った、MRI検査の予約を行い、令和元年度は、検査を430件受け入れた（平成30年度は258件）。 	2	新型コロナウイルス感染症患者を受け入れるために入院患者の抑制を行ったことも一因ではあるが、小児科を除く内科、外科の病床利用率が年度計画を下回っているため、「2」と評価した。	2																			
【目標値】 <table border="1"><tr><th>区分</th><th>平成28年度実績</th><th>令和元年度目標値</th></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>82.9</td><td>85.0</td></tr></table> ※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率	区分	平成28年度実績	令和元年度目標値	病床利用率(%)	82.9	85.0	【目標値】 <table border="1"><tr><th>区分</th><th>令和元年度目標値</th></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>83.0</td></tr></table> ※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率	区分	令和元年度目標値	病床利用率(%)	83.0	【実績】 <table border="1"><tr><th>区分</th><th>平成29年度実績</th><th>平成30年度実績</th><th>令和元年度実績</th></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>76.1</td><td>76.8</td><td>73.4</td></tr></table> ※病床利用率は、小児科病床を除く内科、外科の病床利用率（新型コロナウイルス感染症患者を含む）	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	病床利用率(%)	76.1	76.8	73.4				
区分	平成28年度実績	令和元年度目標値																						
病床利用率(%)	82.9	85.0																						
区分	令和元年度目標値																							
病床利用率(%)	83.0																							
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績																					
病床利用率(%)	76.1	76.8	73.4																					
オ 障害児（者）診療相談機能の充実（小項目） 医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大を図り、障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成を行うなど、障害児（者）の診療相談機能の	オ 障害児（者）診療相談機能の充実（小項目） ・医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大	<p>【医療型重症心身障害児（者）短期入所利用者数の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療型重症心身障害児（者）の短期入所利用者は延べ535人で、体調不良による突然の取りやめがあったことや、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い令和2年3月7日以降レスパイトの受け入れを中止したことから、平成30年度に比べ93人減少した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																			

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
充実を図ります。	・障害児（者）への対応に 関し知識・技術を持った 職員の育成	<p>【障害児（者）への対応に関し知識・技術を持った職員の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 重症心身障害児（者）地域生活支援協議会に4回参加した。また、協議会主催の障害児（者）への関わり方に関する研修会へ2回参加し、訪問看護ステーションやデイケア・デイサービスを行っている施設等と交流を図り、知識を深めた。 ○ 障害児（者）連携会議等に参加し、広島市や家族会の方々との連携強化に努めた。また、舟入市民病院が行っている病院併設型レスパイト事業は、全国的にも珍しく、県内外からの見学の受入れを行った。 ○ 院内において、レスパイトケアの習得のため、他部署からの研修を行った。 			
カ 人間ドックの充実（小項目） 市民の健康保持・増進等の観点から人間ドックの充実を図るとともに、特定健診検査・特定保健指導の実施体制を構築します。また、人間ドック機能評価の受審に向けて取組を進めます。	カ 人間ドックの充実（小項目） ・特定健診検査・特定保健指導の実施 ・人間ドックの健診者数の拡大 ・人間ドック機能評価の受審	<p>【特定保健指導の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成31年4月から特定保健指導を実施した。（市町村共済組合他、4団体） <p>【人間ドックの健診者数の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 健診専門施設の新規開院など、人間ドックを取り巻く環境は極めて厳しい。健診受診者の新規開拓のため、舟入公民館まつりへの参加及び健康サロンの開催（舟入公民館、観音公民館及び南観音公民館）を行い、認知度の向上を図った。 ○ 健康管理センターニュース『健康アップ』を2回（熱中症、インフルエンザ）発刊した。 ○ 前記の取組「病院併設型健康管理センターにおける健康作り活動の実際」について、日本人間ドック学会で発表した。 ○ 乳がん週間及び人間ドック週間に、新聞へ広告を掲載した。 ○ 小児科ファミリーの取り込みのため、病院内の女子トイレにポスター貼布した。小児科病棟へ入院中の小児の母親からの問合せや受診が10人程度見られた。母親の受診の際には、保育士が入院中の小児の見守りを行い、安心して受診できるように配慮した。 ○ 健診受診者の便宜を図り、口コミによる受診を獲得するため、健診異常結果をCD化して結果通知を行った。 ○ 健診受診者にアンケート調査を行い、健診センターの改善に努めた。 ○ オプション検査を追加した（血圧脈波、ヒトパピローマウイルス検査）。 <p>【人間ドック機能評価の受審】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公立病院として人間ドック業務を行うことの意義を改めて整理し、舟入市 	2	人間ドック健診者数が年度計画を下回っているため、「2」と評価した。	2

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																			
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号																		
【目標値】 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>平成28年度実績</th><th>令和元年度目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>人間ドック健診者数(人)</td><td>2,131</td><td>5,000</td></tr></tbody></table> ※平成28年度実績は被爆者健康診断を除いた人数	区分	平成28年度実績	令和元年度目標値	人間ドック健診者数(人)	2,131	5,000	【目標値】 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>令和元年度目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>人間ドック健診者数(人)</td><td>3,500</td></tr></tbody></table>	区分	令和元年度目標値	人間ドック健診者数(人)	3,500	民病院において人間ドック業務を提供することの必要性について検討した結果、令和2年度末をもって人間ドックを終了することとなったことから、機能評価の受審は取りやめた。	【実績】 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>平成29年度実績</th><th>平成30年度実績</th><th>令和元年度実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>人間ドック健診者数(人)</td><td>2,625</td><td>2,814</td><td>2,901</td></tr></tbody></table>	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	人間ドック健診者数(人)	2,625	2,814	2,901			
区分	平成28年度実績	令和元年度目標値																						
人間ドック健診者数(人)	2,131	5,000																						
区分	令和元年度目標値																							
人間ドック健診者数(人)	3,500																							
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績																					
人間ドック健診者数(人)	2,625	2,814	2,901																					

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として担うべき医療

(4) リハビリテーション病院・自立訓練施設

中期目標	ア リハビリテーション医療 リハビリテーション病院は、脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者に対して、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を継続的かつ安定的に提供すること。また、急性期病院と連携し、急性期の疾病治療・リハビリテーションと一体的かつ連続的な回復期のリハビリテーションを実施すること。
	イ 自立訓練 自立訓練施設は、リハビリテーション病院等の医療機関と連携を図りながら、利用者の家庭や職場、地域での生活再構築のための訓練等を行うこと。
	ウ 相談機能、地域リハビリテーション リハビリテーション病院・自立訓練施設は、関係機関と連携して、利用者からの相談を適切に受けられる体制を強化するとともに、退院・退所後の生活を支援すること。また、地域リハビリテーション活動を支援するなど、本市の身体障害者更生相談所等と連携して、リハビリテーションサービスを総合的かつ一貫して提供すること。
	エ 災害医療 リハビリテーション病院は、病院の立地条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院のバックアップ機能を強化すること。

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(4) リハビリテーション病院・ 自立訓練施設	(4) リハビリテーション病院・ 自立訓練施設			
ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供（小項目） 広島市身体障害者更生相談所、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の運営責任者で構成する常設の運営調整会議を設置し、連携の維持を図り、これまでどおり3施設が連携した総合的なリハビリテーションサービスを安定的かつ継続的に提供します。	ア 総合的なリハビリテーションサービスの提供（小項目） ・ 中途障害者の社会復帰、社会参加の促進及び生活の再構築のための一貫したりハビリテーションサービスの提供 ・ 3施設の運営責任者で構成する調整会議の運営	<p>【総合的なリハビリテーションサービスの提供】</p> <p>○ 脳血管障害や脊髄損傷などによる中途障害者の社会復帰や社会参加を促進するため、高度で専門的な医療と自立のための訓練や相談など、生活の再構築のための一貫したりハビリテーションサービスを提供した。</p> <p>【常設の運営調整会議の設置、運営】</p> <p>○ 3施設の運営責任者で構成する連絡会議の実施や、リハビリテーション病院及び自立訓練施設の各部署の運営責任者等で構成する病院・施設運営会議に広島市身体障害者更生相談所の運営責任者が参加することにより、3施設の連携強化を図った。</p> <p>○ リハビリテーション病院の医師が、広島市身体障害者更生相談所長を兼ね、判定業務などを担当するとともに、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医、相談医を担っている。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。 3

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			記号	市長による評価 評価理由・コメント等	記号																		
	年度計画	評価理由等																							
イ 回復期リハビリテーション医療の充実（小項目） ・広島市民病院、安佐市民病院などの急性期病院との連携強化を図り、急性期の疾病治療・リハビリテーションを経過した患者を受け入れ、日常生活機能の向上や社会復帰を目的とした専門的で集中的な回復期のリハビリテーションを連続的・一体的に提供します。 ・退院後の患者を中心に継続的なリハビリテーション医療を提供するため、地域医療機関とも連携して、外来リハビリテーションや訪問リハビリテーション・訪問看護など在宅療養への支援の充実を図ります。	イ 回復期リハビリテーション医療の充実（小項目） ・365日リハビリテーション医療の充実	【365日リハビリテーション医療の充実】 ○ 平日、土日祝日にかかわらず365日切れ目ないリハビリテーション医療を提供するため、平成29年度から土日祝日における療法士の平日並み配置を実施し、効果的な回復期リハビリテーション医療の提供に努めた。患者1人当たりのリハビリテーション実施単位数は平成30年度に続き8.5単位と、目標の8.2単位を上回り、在宅復帰率は85.4%と、平成30年度実績をわずかに下回ったものの、目標値の81.9%を大きく上回った。	【目標値】 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>令和元年度目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）</td><td>8.2</td></tr><tr><td>在宅復帰率（%）</td><td>81.9</td></tr></tbody></table> ※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出	区分	令和元年度目標値	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.2	在宅復帰率（%）	81.9	【実績】 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>平成29年度実績</th><th>平成30年度実績</th><th>令和元年度実績</th></tr></thead><tbody><tr><td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）</td><td>8.4</td><td>8.5</td><td>8.5</td></tr><tr><td>在宅復帰率（%）</td><td>82.0</td><td>85.8</td><td>85.4</td></tr></tbody></table> ※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出	区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.4	8.5	8.5	在宅復帰率（%）	82.0	85.8	85.4	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	令和元年度目標値																								
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.2																								
在宅復帰率（%）	81.9																								
区分	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績																						
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	8.4	8.5	8.5																						
在宅復帰率（%）	82.0	85.8	85.4																						
【目標値】 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>平成28年度実績</th><th>令和3年度目標値</th></tr></thead><tbody><tr><td>患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）</td><td>7.9</td><td>8.4</td></tr><tr><td>在宅復帰率（%）</td><td>81.8</td><td>82.0</td></tr></tbody></table> ※在宅復帰率は、全入院患者を対象として算出	区分	平成28年度実績	令和3年度目標値	患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	7.9	8.4	在宅復帰率（%）	81.8	82.0	・急性期病院である広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化 ・退院支援と地域連携診療の推進	【広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化】 ○ 広島市民病院と安佐市民病院から急性期医療を終えた患者を受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供した。令和元年度は、広島市民病院から164人、安佐市民病院から88人と、平成30年度を上回る入院患者を受け入れた（全入院患者に占める割合も50.4%と、平成30年度の47.1%を上回った）。 ○ 令和元年11月に開催された病院機構の地域連携実務者会議に参加し、相互の情報交換や連携強化を図った。また、スムーズな転院受け入れのため、令和元年11月から、広島市民病院及び安佐市民病院に向けて空床及び待機状況等の情報提供を開始した。 【退院支援と地域連携診療の推進】 ○ 患者が退院後に地域で療養や生活を継続できるように、患者一人一人に担当の退院支援職員を充てて入院早期から退院支援を行った。 また、地域の医療機関等との連携を進めて転院・退院調整の円滑化を図つ														
区分	平成28年度実績	令和3年度目標値																							
患者1人当たりリハビリテーション実施単位数（単位/日）	7.9	8.4																							
在宅復帰率（%）	81.8	82.0																							

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																														
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																													
	<p>・認知症を合併した患者のケアの推進</p> <p>・外来リハビリテーション（言語療法・理学療法・作業療法）・専門外来の実施</p>	<p>た。</p> <p>○ 地域の医療機関と連携した地域連携診療計画（地域連携クリニカルパス）の運用の拡大に努めた（令和元年度適用件数 185 件）。</p> <p>【認知症を合併した患者のケアの推進】</p> <p>○ 身体疾患のために入院した認知症患者に対するケアの質の向上を図るために、入院前の生活状況等を踏まえた看護計画を作成するとともに、多職種による認知症ケアの専門チーム体制を整えてカンファレンス及び病棟ラウンドを週 1 回実施し、令和元年 12 月には認知症ケア加算 1 の施設基準を届け出るなど、認知症状を考慮したケアの充実・強化を図った。</p> <p>【外来リハビリテーション・専門外来の実施】</p> <p>○ 退院した患者に継続して外来でのリハビリテーションを提供するため、従来の言語療法に加え、平成 28 年度から理学療法及び作業療法を開始し、平成 29 年度から自立訓練施設の利用者を対象に加えるなど、外来リハビリテーションの充実を図ってきた。さらに、平成 30 年度診療報酬改定により回復期リハビリテーション病棟退院後 3 か月以内の外来リハビリテーションが可能となり、対象者が拡大したことから、理学療法及び作業療法の実施体制の充実を図った。</p> <p>（外来リハビリテーションの実績）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>言語</td> <td>延人数 2,074 人</td> <td>2,327 人</td> <td>2,409 人</td> </tr> <tr> <td>療法</td> <td>実施単位数 6,220 単位</td> <td>6,956 単位</td> <td>7,209 単位</td> </tr> <tr> <td>理学</td> <td>延人数 623 人</td> <td>1,338 人</td> <td>1,891 人</td> </tr> <tr> <td>療法</td> <td>実施単位数 1,916 単位</td> <td>4,049 単位</td> <td>5,656 単位</td> </tr> <tr> <td>作業</td> <td>延人数 857 人</td> <td>1,427 人</td> <td>1,885 人</td> </tr> <tr> <td>療法</td> <td>実施単位数 2,550 単位</td> <td>4,271 単位</td> <td>5,646 単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 高次脳機能障害を有する外来リハビリテーション利用者に対する専門外来を実施し、糖尿病足病変等で歩行に支障をきたしている患者にフットケア外来を実施した。また、令和元年度は、脳神経内科医による神經難病患者に対するリハビリの専門外来を開始したほか、VF 検査による摂食嚥下評価を 4 人に実施した。</p>	区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	言語	延人数 2,074 人	2,327 人	2,409 人	療法	実施単位数 6,220 単位	6,956 単位	7,209 単位	理学	延人数 623 人	1,338 人	1,891 人	療法	実施単位数 1,916 単位	4,049 単位	5,656 単位	作業	延人数 857 人	1,427 人	1,885 人	療法	実施単位数 2,550 単位	4,271 単位	5,646 単位				
区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																															
言語	延人数 2,074 人	2,327 人	2,409 人																															
療法	実施単位数 6,220 単位	6,956 単位	7,209 単位																															
理学	延人数 623 人	1,338 人	1,891 人																															
療法	実施単位数 1,916 単位	4,049 単位	5,656 単位																															
作業	延人数 857 人	1,427 人	1,885 人																															
療法	実施単位数 2,550 単位	4,271 単位	5,646 単位																															

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																				
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																			
		(専門外来の実績(延人数)) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高次脳機能障害外来</td> <td>755人</td> <td>829人</td> <td>983人</td> </tr> <tr> <td>フットケア外来</td> <td>85人</td> <td>85人</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>神経難治りハ外米</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>栄養嚥下評価</td> <td>—</td> <td>3人</td> <td>4人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	高次脳機能障害外来	755人	829人	983人	フットケア外来	85人	85人	79人	神経難治りハ外米	—	—	37人	栄養嚥下評価	—	3人	4人				
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度																							
高次脳機能障害外来	755人	829人	983人																							
フットケア外来	85人	85人	79人																							
神経難治りハ外米	—	—	37人																							
栄養嚥下評価	—	3人	4人																							
	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問リハビリテーション・訪問看護の実施 	<p>【訪問リハビリテーション・訪問看護の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 退院した患者の在宅療養へのスムーズな移行及び継続的な在宅療養の維持を支援するため、平成27年度から医療保険による訪問リハビリテーション及び訪問看護を試行的に開始し、平成28年度からは介護保険適用者にも対象を拡大して実施してきた。令和元年度は、訪問リハビリテーションを49人に、訪問看護を45人に実施した。 <p>(訪問リハビリテーションの実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>59人</td> <td>61人</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>実施単位数</td> <td>177単位</td> <td>183単位</td> <td>143単位</td> </tr> </tbody> </table> <p>(訪問看護の実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延人数</td> <td>33人</td> <td>40人</td> <td>45人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	延人数	59人	61人	49人	実施単位数	177単位	183単位	143単位	区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	延人数	33人	40人	45人				
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度																							
延人数	59人	61人	49人																							
実施単位数	177単位	183単位	143単位																							
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度																							
延人数	33人	40人	45人																							
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーション活動支援事業等の推進 	<p>【地域リハビリテーション活動支援事業等の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市が実施する介護予防拠点など住民運営の「通いの場」の立上げ・運営の支援や、要支援者等に対する介護予防ケアマネジメントなどに、リハビリテーション専門職（以下「リハ職」という。）を派遣するため、安佐南区におけるリハ職の派遣調整を行う業務を令和元年度も広島市から受託し実施した。 <p>また、令和元年度から、広島二次保健医療圏における「通いの場」設置の推進を目的として関係機関のネットワークを構築する事業を広島県から受託し実施した。</p>																								

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価										
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号									
		<p>(リハ職派遣調査業務の実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和元年度 派遣調整人數</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防拠点整備における支援</td> <td>149人(221人)</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人數 40人(46人)</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメントの支援</td> <td>13人(12人)</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人數 2人(3人)</td> </tr> </tbody> </table>		区分	令和元年度 派遣調整人數	備考	介護予防拠点整備における支援	149人(221人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人數 40人(46人)	介護予防ケアマネジメントの支援	13人(12人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人數 2人(3人)			
区分	令和元年度 派遣調整人數	備考													
介護予防拠点整備における支援	149人(221人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人數 40人(46人)													
介護予防ケアマネジメントの支援	13人(12人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人數 2人(3人)													
	<ul style="list-style-type: none"> ・通所リハビリテーションの実施に向けた検討 	<p>【通所リハビリテーションの開始】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通所リハビリテーションの実施に向け、院内ワーキンググループ等における検討を行い、令和元年10月から、退院後も集団コミュニケーション療法及び個別言語聴覚療法が必要な対象者に対し、介護保険による短時間通所リハビリテーションの実施を開始し、84人に実施した。 													
ウ 自立訓練施設の利用促進 <u>(小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション病院との連携を強化し、連続性のある訓練の実施と訓練内容の充実を図ります。 ・医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携を強化し、地域からの施設利用の拡大を図ります。 ・施設の機能、提供する支援の充実のため、新たな障害福祉サービスの実施について検討します。 	ウ 自立訓練施設の利用促進 <u>(小項目)</u> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション病院と連携した連続性のある訓練の実施及び訓練内容の充実 ・施設利用者の拡大（医療・福祉関係機関、福祉サービス事業者等との連携） 	<p>【連続性のある訓練の実施及び訓練内容の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ リハビリテーション病院の医師が、自立訓練施設の医師を兼ね、リハビリテーション計画の担当医として、連続性のある訓練を実施するとともに、医学的リハビリテーションを取り入れるなど、訓練内容の充実を図った。 ○ 高次脳機能障害等のあるリハビリテーション病院を退院した利用者について、同病院の言語外来リハビリテーションと連携した訓練を実施した。また、医学的リハビリテーションを必要とする自立訓練施設利用者に、リハビリテーション病院の外来リハビリテーション（理学療法、作業療法）を提供した。 ○ 令和元年度の施設利用者94人のうち、外来リハビリテーションを提供した施設利用者の数は47人で、提供回数は延べ2,719回となり、平成30年度を上回った（平成30年度は外来リハビリテーションを提供した施設利用者数47人、提供回数延べ1,980回）。 ○ 令和元年度の施設利用者のうち、リハビリテーション病院退院患者は37人で、全施設利用者に占める割合は39.4%であった。（平成30年度は33人で、全施設利用者に占める割合は42.3%）。 <p>【施設利用者の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設利用の拡大を図るために、医療機関、地域包括支援センター、相談支援事業所、行政機関、関係団体など40カ所以上を職員が訪問し、施設紹介や連携強化を図ったことにより、月平均の施設利用者数は、57人（平成30年度は 		4	リハビリテーション病院と連携した訓練の実施や施設利用者の拡大など年度計画を上回って実施していると判断し、「4」と評価した。	4									

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価						市長による評価																
	年度計画	評価理由等						記号	評価理由・コメント等	記号														
		46人)となり、平成26年度の法人化以降の最高となった。																						
		<p>(施設利用者数の実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>月平均利用者数 (契約者数)</td> <td>38人</td> <td>44人</td> <td>41人</td> <td>41人</td> <td>46人</td> <td>57人</td> </tr> </tbody> </table>						区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	月平均利用者数 (契約者数)	38人	44人	41人	41人	46人	57人			
区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度																		
月平均利用者数 (契約者数)	38人	44人	41人	41人	46人	57人																		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活訓練の充実 ・新たな障害福祉サービスの実施の検討 	<p>【生活訓練の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高次脳機能障害者を対象に平成30年6月から新たに開始した自立訓練(生活訓練)のニーズをふまえ、令和元年7月から定員を6人から12人に拡充した。 <p>【新たな障害福祉サービスの実施の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和元年度は、就労定着支援サービスの実施に向けて、利用者数や新たに必要となる人員や設備、備品の見込などについて検討を行った。 当該サービスは、昼間に自宅や企業等を訪問するため、今後、日勤帯の業務に支障が出ないよう、職員体制を見極めながら、実施時期などを含め、引き続き検討することとしている。 																						
<u>工 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</u>	<u>工 相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進(小項目)</u>	<p>【相談機能の充実と地域リハビリテーションの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療支援室において入院患者一人一人に担当する医療ソーシャルワーカーを充てて、入院から退院後までの生活上の心配事等について相談に応じた。 ○ リハビリテーション病院内に平成27年9月に設置した身体障害者特定相談支援事業所の相談支援専門員により、障害福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画案」作成など、地域の医療・保健・福祉機関と連携した相談支援を行った。 ○ リハビリテーションをテーマとした市民公開講座や市政出前講座を実施するとともに、医療機関等におけるリハビリテーションの技術支援を目的とした研修会を開催した。また、身体障害者更生相談所と連携して、院内において車椅子や歩行器などの福祉用具の展示を行った。 						3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3														

中期計画	令和元年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化（小項目） 西風新都に立地し、高速道路インターチェンジに近接するというリハビリテーション病院の地理的条件を生かし、デルタ地帯が被災した場合に備え、他の市立病院の診療情報の保管や医薬品等の備蓄などバックアップ機能の強化を図るとともに、DMA Tの受入拠点、広域搬送拠点としての活用について検討します。	オ 災害時の市立病院間のバックアップ機能の強化（小項目） ・ DMA Tの受入拠点及び広域搬送拠点としての活用についての検討	<p>【DMA Tの受入拠点等についての検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ DMA Tの受入拠点及び広域搬送拠点として施設内の提供可能なスペース等の想定などの活用の具体的な内容について、引き続き検討を行った。 ○ 新型コロナウイルス感染症対策における、他の市立病院の支援として、リハビリテーション病院で備蓄していた個人防護着キット等を舟入市民病院に提供した。また、新型コロナウイルス感染症拡大による物流途絶の場合に備え、広島市民病院・舟入市民病院で使用する診療材料の保管場所についての検討を行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3